

ホタルをシンボルとした水辺環境保全の取り組み

上田直子(北九州市建設局下水道河川部水環境課ほたる係長)

1. はじめに

北九州市では、現在、市内の至る所でホタルの美しい乱舞を見ることが出来る。しかし、昭和30～40年代には農薬の散布、水質汚濁や都市化などによって、ホタルをはじめとする多くの水生生物が市内の水辺から姿を消した。中でも、夏の風物詩として昔から人々に親しまれてきたホタルの激減は、市民にとって環境問題を身近なものとして捉えるきっかけとなった。その後、市民をはじめ多くの人々による公害克服の取り組みと下水道整備が相まって、河川水質が加速度的に改善され、昭和54年には市内で初めて、ホタルを愛する人たちの手で小熊野川にゲンジボタルの幼虫が放流された。その翌年、20匹程度のホタルが飛翔したのをきっかけに、市内の数河川で清掃活動やホタルの飼育活動が開始され、ホタルの復活を願うそのうねりは、次第にしない全域に広がっていった。

2. ほたる係の設置

北九州市は、昭和63年に「北九州ルネッサンス構想」を策定し、街づくりのテーマの1つとして「緑とウォーターフロントを生かした快適居住都市」を挙げた。その一環として、「ほたるのふるさとづくり」という新たな分野の取り組みを全市レベルに展開させるため、平成4年に建設局内に「ほたる係」が設置された。ホタルをシンボルとした水辺環境保全の思想と実践をよりの確に、より迅速に施策に反映させるため、「ほたる係」を環境や教育に関連した部署ではなく、河川をはじめとする建設事業を実施する部署に配置した点が本市のユニークなところである。現在、ほたる係は下水道河川部水環境課の中に生物職の職員2名で構成されているが、同局の河川・下水道・公園部門などと有機的に連携し、発足当初のテーマ「ほたる」から多自然型川づくりなど自然環境の総合的復元へと業務を展開している。

3. ほたる係の業務

ほたる係の主な業務は、ホタルに関連するボランティア活動の支援・啓発と、水生生物の生息環境整備の2つに大別される。以下に、ほたる係の業務を述べる。

(1) ホタル育成保護活動の支援・啓発および広報

- ①ほたる会議の開催
- ②ほたる講座・水辺教室の実施
- ③ほたる新聞の発行
- ④ほたる飼育マニュアルの刊行
- ⑤ほたる飛翔調査の実施とホタルマップの作成
- ⑥ほたる写真塾とほたるフォトコンテストの実施
- ⑦ほたるアドバイザーの派遣
- ⑧北九州市ほたる育成助成金制度
- ⑨北九州ほたるの会事務局

(2) 水生生物の生息環境整備

- ①市内河川の動植物生息環境状況の把握および工事留意点の抽出
- ②多自然型川づくりなど水生生態系の総合的復元の指導・研究
- ③身近な水辺づくり事業
 - ・志井うるおい池:廃止・埋め立て予定の雨水暫定池を利用したビオトープづくり
 - ・さやっ子せせらぎ:新幹線トンネル湧水を利用したせせらぎの再生
 - ・洞海ビオパーク:下水処理水を植生浄化し、その水を利用したせせらぎの整備

4. 北九州市ほたる館

北九州市の約20年にわたる、市民と行政の連携によるホタル育成保護活動は、本市を公害の街から、百万都市でありながら、市街地の近くでもホタルがみられる自然豊かな街へ変えた。同時に、水辺環境保全活動や地域コミュニティ活動の活性化、さらには子供たちの環境学習や心の成長まで、大きな成果をあげてきた。平成14年春には、これまでの活動のノウハウを蓄積、継承、伝達して未来へ発展させる拠点として、また、ホタルをはじめ、メダカや水草などの様々な水生生物の生態や分布が学習・調査研究できる施設として、「北九州ほたる館」が開館する。今後は、本市の水辺環境保全活動をさらに活性化させ、次世代へと繋いでいく取り組みを、この館を中心に推進していく予定である。

第10回シンポジウム より